

# 情報システムの革新

## ～ POS システムが普及するまでの過程 ～

いつ、どこで、なにが、どれだけ売れたのか、という情報を瞬時に、そしてたくさんの店の情報を同時に把握できるということは、流通業者にとってもメーカーにとっても昔は夢物語でした。それは、どのようにして可能になったのでしょうか？

### ■Step 1…EOS の導入

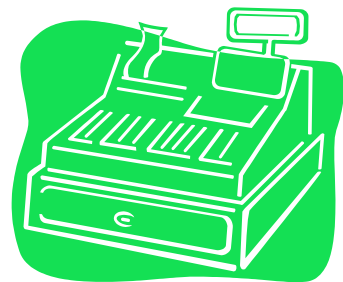
流通業者が情報システム化に取り組み始めたきっかけは、1973 年の石油ショックがもたらした不況でした。大手スーパー各社の利益率が急激に悪化し、経営効率の改善が迫られていました。その一環として、店舗から本部への発注作業に EOS (Electronic Ordering System : オンライン受発注システム) が導入されました。店舗では商品棚にバーコードラベルを貼り、单品ごとに在庫量を数え設定している数量より少なければ携帯端末機でラベルを読み取り、必要数量を入力して本部にオンライン伝送しました。本部はコンピュータで発注納品伝票を作成し、卸売業者がその伝票を受け取りに来ました。

### ■Step 2…多端末現象の解消

卸売業者もスーパーとのオンライン化をはかりましたが、当初のコンピュータは同一メーカー同士のものでなければデータ交換ができませんでした。そのため納品先のコンピュータにあわせて、多様なメーカーのコンピュータを揃えないといけないという「多端末現象」が起きました。これはオンラインの通信手順が各メーカーで異なっているために発生する問題でしたが、1982 年に J 手順が制定されることで解消されました。

### ■Step 3…POS の本格導入

J 手順が制定された 1982 年頃から POS の本格導入がコンビニではじまりました。スーパーと比較して売場面積の小さい、取り扱いアイテム数の少ないこの業態は、よりきめの細かい商品管理が必要とされたのです。コンビニで商品を取り扱ってもらうためには、商品にバーコードを印刷しなければならなくなりバーコード印刷が一般化するようになりました。



### ■Step 4…VAN の構築

中小スーパーも含めた POS の普及によって、取引者間では大量の商取引データの交換がオンラインで行われるようになりました。それが EDI (Electronic Data Interchange : 電子データ交換) ですが、その運営を専門的に行うのが VAN (Value Added Network : 付加価値通信網) 会社で業界 VAN と地域流通 VAN に大別されました。このインフラが完成して POS システムがどこでも使われるようになったのです。